

- 問1 社会において「資源の有限性」があるために、私たちが経済活動を行う上で必ず直面する「意思決定」に関する説明として、最も適切なものはどれか。 (2022年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 資源は無限に存在するため、何を選択するかを悩む必要はなく、すべての欲求を同時に満たすことができる。 | 2. 資源が限られている場合には、政府がすべての個人の欲求を完全に禁止することで、希少性の問題を解決する。 | 3. すべての欲求を満たすことは不可能なため、限られた資源を何に使うかという「選択」を行う必要がある。 | 4. 希少性が高いものほど価格が安くなるため、家計は常に最も希少なものを優先して購入すべきである。 |
|--|---|---|---|
- 問2 企業の経営戦略において、顧客に繰り返し店舗を利用してもらうための取り組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2018年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 値引き券の発行は、顧客の来店頻度を高めることで中長期的な売上の安定を図るものである。 | 2. サービスの種類を増やすことは、1回の買い物でまとめて大量に購入してもらうことを最大の目的としている。 | 3. 来店頻度を向上させる戦略は、主に1回あたりの購入額が非常に高い高級専門店で採用される。 | 4. 商品の取り寄せサービスは、顧客が店舗に滞在する時間を短くするために導入される。 |
|---|---|--|--|
- 問3 河川の周辺に位置する平坦な地域で、河川の水面との標高差がほとんどない場所について考えます。このような地形的特徴を持つ地域が、ハザードマップにおいて「洪水浸水想定区域」に指定される理由として最も適切な説明はどれですか。 (2017年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 標高が高い山地に位置しているため、等高線の密度が高く土砂崩れのリスクが高いから | 2. 河川から遠く離れた場所にあるため、火災が発生した際の消火活動に支障が出るから | 3. 河川の水面との標高差が少ないため、大雨で増水した際に水が溢れて流れ込みやすいから | 4. 季節風の影響を強く受ける場所に位置しており、強風による家屋の倒壊が予想されるから |
|--|---|---|---|
- 問4 北太平洋を横断する航空路線において、サンフランシスコから東京へ向かう便の飛行時間が、東京からサンフランシスコへ向かう便に比べて2時間ほど長くかかる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 中緯度帯の上空で一年中西から東へ吹いている偏西風が、西向きの飛行において向かい風となるため。 | 2. 地球が西から東へ自転しているため、自転の方向に逆らって進む西向きの飛行機は、相対的に移動距離が長くなってしまうため。 | 3. 低緯度地域から高緯度地域に向かって吹く貿易風の影響を避けるために、西向きの便は大きく北側へ迂回して飛行しなければならないため。 | 4. 季節によって吹く方向が変化する季節風の影響により、太平洋上空では常に東から西への強い気流が発生しているため。 |
|---|---|--|---|
- 問5 温州みかんの栽培地域に関する予測において、地球温暖化が進行した21世紀後半の日本の状況を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--|--|---|
| 1. 灌漑施設の不足により、日本国内のほぼすべての地域で栽培が困難になる。 | 2. 現在は関東以西の太平洋沿岸部が中心だが、将来は北陸や東北地方まで栽培に適した地域が広がる。 | 3. 気温が上昇することで、現在の主産地における収穫量はさらに増加し、品質も安定するようになる。 | 4. 寒冷化の影響によって、現在は東北地方まで広がっている栽培適地が、将来的には関東以西に限定される。 |
|---------------------------------------|--|--|---|
- 問6 近年のインドでは、世帯収入の向上に伴い社会構造が大きく変化しています。2006年から2015年の統計において、世帯数の約6割以上を占めるまでに急増し、インドが「巨大な消費市場」と呼ばれる原動力となった階層の名称として、正しい組み合わせを選びなさい。 (2018年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|----------------|--------------|------------|
| 1. 知識層・封建層 | 2. 都市貧困層・熟練労働者 | 3. 公務員・伝統的農民 | 4. 中間層・富裕層 |
|------------|----------------|--------------|------------|
- 問7 明治政府が「富国強兵」のスローガンのもと、西洋の新しい機械や技術を日本に広めるために自ら経営した、国内産業の近代化の手本となる工場の名称を選びなさい。 (2019年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|---------|-----------|
| 1. 財閥系工場 | 2. 指定保税工場 | 3. 藩営工場 | 4. 官営模範工場 |
|----------|-----------|---------|-----------|
- 問8 18世紀の江戸時代において、幕府や諸藩による支配体制のもと、米の値段の下落などにより武士の財政は困窮していました。こうした状況下で、幕府が商工業者の結成した「株仲間」という同業者組合を公認した主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 商工業者に独占的な営業を認める見返りに、営業税を納めさせて幕府の収入を増やすため | 2. キリスト教の信仰が商人の間で広がるのを防ぐため、組合を通じて思想統制を行うため | 3. 商工業者の自由な経済活動を促進し、市場における商品の流通価格を大幅に下げるため | 4. 農村から都市へ流入した人々を強制的に村へ帰し、農業生産力を回復させるため |
|---|--|--|---|
- 問9 日本やアメリカが位置する中緯度帯の上空では、地球の自転の影響によって、一年中西から東に向かって強い風が吹いています。東京から太平洋を横断してサンフランシスコへ向かう航空路線の統計を確認すると、往路（東行き）は約9時間20分であるのに対し、復路（西行き）は約11時間20分と、飛行時間に約2時間の差が生じています。この現象の原因となっている、中緯度帯の上空を吹く風の名称を答えなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|
| 1. 季節風（モンスーン） | 2. 偏西風 | 3. 局地風 | 4. 貿易風 |
|---------------|--------|--------|--------|
- 問10 スイスやイタリアなどの国々が、食料自給や土地利用を考える際、イギリスやフランスといった他のヨーロッパ諸国と比較して、地形的にどのような制約を受けていると考えられますか。その理由と背景として適切なものを選びなさい。 (2016年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 寒冷な気候により永久凍土が広がっており、農作物の栽培が可能な期間が極端に短いため。 | 2. アルプス山脈やアペニン山脈などの険しい山地が国土の多くを占め、大規模な耕作が可能な平地が限られているため。 | 3. 国土の大部分が海抜ゼロメートル以下の低地であり、常に浸水の危険があるため。 | 4. 広大な乾燥地帯や砂漠が国土の半分以上を占めており、農業用水の確保が困難であるため。 |
|--|--|--|--|
- 問11 熱帯雨林気候において、気温の年較差（最も暑い月と最も寒い月の平均気温の差）が他の気候区分に比べて非常に小さく、一年中ほぼ一定の気温となる理由として最も適切なものを選択してください。 (2026年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|---|------------------------------------|
| 1. 偏西風が一年中同じ方向に吹き、暖かい空気を運び続けているため | 2. 大陸の内部に位置しており、海風の影響を全く受けないため。 | 3. 一年を通じて太陽の南中高度が高く、受け取る太陽放射エネルギーの量の変化が小さいため。 | 4. 低気圧が停滞し続けることで、雲が太陽の光を常に遮っているため。 |
|-----------------------------------|---------------------------------|---|------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 すべての欲求を満たすことは不可能なため、限られた資源を何に使うかという「選択」を行う必要がある。	私たちの自由に使えるお金（予算）や時間、そして社会全体の資源には限りがあります。希少性が存在する環境下では、ある目的のために資源を使うと、別の目的にその資源を使うことができなくなります。そのため、私たちは自分にとって最も満足度の高いものは何かを考え、限られた中から最善のものを選び取らなければなりません。
問2	答え 1 値引き券の発行は、顧客の来店頻度を高めることで中長期的な売上の上昇を図るものである。	企業の経営において、特定の店舗を継続的に利用するリピーターの存在は重要です。値引き券などのサービスを提供して来店回数を増やす戦略は、1回の購入額が少なくとも、頻繁に利用してもらうことで全体の利益を確保しようとする仕組みです。これは、大量購入を目的としたまとめ買いの促進とは異なるアプローチです。
問3	答え 3 河川の水面との標高差が少ないため、大雨で増水した際に水が溢れて流れ込みやすいから	洪水浸水想定区域は、地形的に河川に近く、かつ河川の水面と土地の高さの差が少ない平坦な場所に設定されます。こうした場所は、大雨などで川の水量が増えた際に、物理的に水が溢れ出して浸水するリスクが非常に高いため、防災上の注意喚起を目的として指定されます。山地や季節風の影響といった他の要因とは異なり、浸水のしやすさは「標高差」と「河川との距離」に深く関係しています。
問4	答え 1 中緯度帯の上空で一年中西から東へ吹いている偏西風が、西向きの飛行において向かい風となるため。	偏西風は中緯度帯の上空を西から東へ吹き抜ける強い風です。サンフランシスコから日本へ向かう「西向き」の飛行では、この風に逆らって進む必要があるため、追い風を利用できる「東向き」の飛行よりも所要時間が長くなります。こうした気象条件は、航空路線の燃料計画やダイヤ設定に大きな影響を与えています。
問5	答え 2 現在は関東以西の太平洋沿岸部が中心だが、将来は北陸や東北地方まで栽培に適した地域が広がる。	温州みかんの栽培適地は、現在は主に関東以西の比較的温暖な地域に分布していますが、温暖化の影響で適した気温帯が北へと移動します。その結果、将来は北陸や東北地方でも栽培が可能になる一方、現在の主産地では気温が高くなりすぎて品質の低下や栽培の困難を招くことが懸念されています。
問6	答え 4 中間層・富裕層	インドの所得階層別世帯数の推移を見ると、かつては8割近くを占めていた低所得層が3割程度まで減少しました。これに代わって、購買力を持つ中間層が約2割から6割を超える規模まで拡大し、さらに富裕層も微増しています。これらの層がさまざまな製品を購入することで国内の需要が支えられ、インドは世界的に注目される魅力的な市場へと変貌を遂げました。
問7	答え 4 官営模範工場	明治政府は、欧米諸国に対抗できる経済力と軍事力を持つための「富国強兵」を掲げました。当時の日本は民間の資本や技術が不足していたため、政府が自ら西洋の技術や機械を導入した工場を設立・経営し、日本全体の産業を近代化させるためのモデルケースとしました。これにより、全国の産業に新しい技術を普及させる狙いがありました。
問8	答え 1 商工業者に独占的な営業を認める見返りに、営業税を納めさせて幕府の収入を増やすため	江戸幕府の財政は年貢（米）に依存していましたが、貨幣経済が進展して米価が安くなると、幕府の財政は不安定になりました。そこで幕府は、商工業者の組合である株仲間を公認して独占販売権などの特権を与える代わりに、「冥加金」や「運上金」といった営業税を課しました。これにより、農業以外からの安定した税収入を確保し、財政の立て直しを図ろうとしました。
問9	答え 2 偏西風	日本を含む中緯度帯の上空には、一年中西から東へと流れる偏西風が吹いています。航空機が東へ向かう（日本からアメリカへ行く）際は偏西風が追い風として働くため速度が上がりますが、西へ向かう（アメリカから日本へ戻る）際は強い向かい風を受けることになるため、飛行時間に大きな差が生まれます。
問10	答え 2 アルプス山脈やアペニン山脈などの険しい山地が国土の多くを占め、大規模な耕作が可能な平地が限られているため。	スイスやイタリアは、アルプス山脈やアペニン山脈などの造山帯に含まれる険しい地形を有しています。このような山がちな地形は、広大な平野を利用した大規模農業を行う上での制約となります。地形は、その国の農業形態や食料自給率の背景を理解する上で重要な要素となります。
問11	答え 3 一年を通じて太陽の南中高度が高く、受け取る太陽放射エネルギーの量の変化が小さいため。	赤道付近では、地球の公転に関わらず一年中太陽光がほぼ真上から降り注ぎます。中緯度や高緯度の地域のように季節によって太陽の高さ（南中高度）が大きく変わることがないため、地表面が受けるエネルギー量が一定に保たれ、結果として月平均気温の変動が極めて小さくなります。